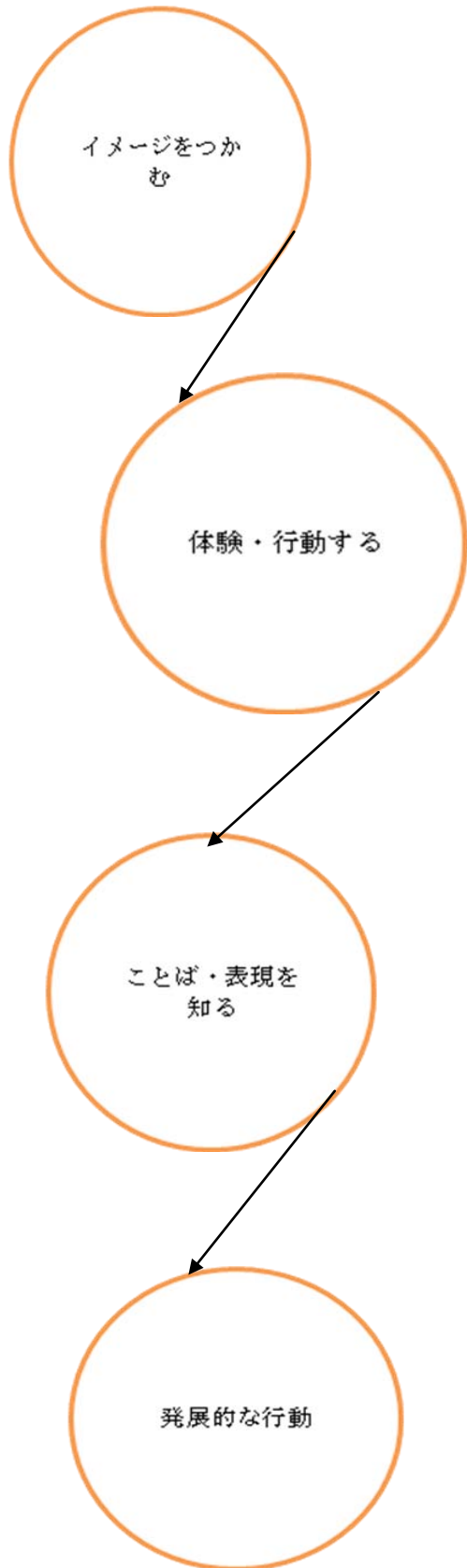


げんさいこうどう さいがいじ こ じしん み あんぜん まも
「減災行動のススメ」 災害時に子ども自身で身の安全を守る



● 「減災行動のススメ」

- ・本冊を読んで、災害時の行動を「自分のこと」としてとらえる。
- ・今までの自分の体験・経験と、災害時にどう行動するのかのイメージを結びつける。

■ 活動シート

- ・活動 1 - 地震のとき、一番大切なことは何でしょう？
- ・活動 2 - 「安全カード」(避難カード)を作しましょう。
- ・活動 3 - どこに避難しますか？
- ・活動 4 - 非常持ち出し袋に入れるもの
備蓄しておくもの

◆ ことば・表現シート

- 災害時に役にたつ標識とマーク
- 「減災行動のススメ」内容理解に役立つ用語集
- 災害の時に使われることば

・発展的な活動

- 「防災センター」見学

取り上げる生活上行為の事例

- ① 地震等災害時にどう行動するのが理解でき、非常時に対応できるようになる。
- ② 家族間の連絡を取り合う方法を理解する。
- ③ 自分の住んでいる地域で、どこに避難するかを理解する。
- ④ 非常時に持ち出すものを理解する、家に備蓄しておくものを理解する。

教室活動の目標

子どもが一人でいたとしても、地震などの災害発生時に安全に行動できるようにする。

教室活動のねらい

- ・日本で生活する上で、災害に対する理解と知識を持つ。
- ・たとえ子どもであっても、自分の身を自分で守るための知識を得る。
- ・家族間の連絡を取り合う方法を知る。災害用伝言ダイヤルが使えるようになる。
- ・災害に備えて備蓄品を準備し非常持ち出し品をそろえられるようにする。

いめーじ
《 イメージをつかむ 》

げんさいこうどう よ ないよう りかい
● 「減災行動のススメ」を読んで内容を理解しましょう

- か こ じしんさいがい お し
① 過去の地震災害で起きたことを知る。
- じしん お まえ し
② 地震が起きる前にすることを知る。
- じしん お とき し
③ 地震が起きた時にすることを知る。
- じしん お あと し
④ 地震が起きた後にすることを知る。

たいけん こうどう
《 体験・行動する 》

かつどう じしん とき いちばんたいせつ なん
■ 活動 1 — 地震の時に一番大切なことは何でしょう

こ じぶん じぶん み まも ちしき え
子どもが自分で自分の身を守るための知識を得るために。



にほん　　じしん　　お
日本では地震がたくさん起きます。

か　こ　　お　　おお　　じしん　　お　　げんさいこうどう　　すすめ　　よ　　こた
過去に起きた大きな地震はどこで起きていますか。「減災行動のススメ」を読んで答えましょう。

くに　　じしん　　お
あなたの国では地震が起きますか。

じぶん　　し　　はっぴょう
自分の知っていることを発表しましょう。

いま　　ばしょ　　じぶん　　あんぜん　　まも　　こうどう　　はな　　あ
今いる場所で自分の安全を守るために、どう行動したらいいのか話し合いましょう。

げんさいこうどう　　すすめ　　よ　　はな　　あ
「減災行動のススメ」を、よく読んで話し合いましょう。

いえ　　なか
★ 家の中にいたら

いえ　　そと
★ 家の外にいたら

がっこう
★ 学校にいたら

えれべーター　　なか
★ エレベーターの中にいたら

の　　もの　　なか
★ 乗り物の中にいたら

うみ　　かわ　　ちか
★ 海や川の近くにいたら

うみ
◆ 海にいたら

やま
◆ 山にいたら

かわ
◆ 川にいたら

たいけん こうどう
 << 体験・行動する >>

かつどう さいがいじれんらくかーど ひなんかーど つく
■活動2 – 災害時連絡カード(避難カード)を作ります

さいがいじれんらくかーど ひなんかーど れい
 災害時連絡カード(避難カード)の例

<p>ひなん 避難カード I ■ Thẻ lánh nạn 1 ■ บัตรหลบภัย ที่ 1 ■ Kartu Pengungsian I</p> <p>なまえ 名前 Họ và tên : ชื่อ สกุล Nama</p> <p>ほごしや なまえ 保護者の名前 Tên người bảo hộ : ชื่อของผู้ปกครอง (保護者の名前) Nama orang tua wali</p> <p>がっこうめい 学校名 Tên trường : ชื่อโรงเรียน (学校名) Nama sekolah</p> <p>じゅうしょ 住所 Địa chỉ : ที่อยู่ Alamat</p> <p>でんわ 電話 Điện thoại : หมายเลขโทรศัพท์ Telepon</p> <p>はな ことば 話す言葉 Ngôn ngữ giao tiếp : ภาษาพูด (話す言葉) Bahasa yang digunakan</p> <p>けつえき 血液型 Nhóm máu : กรุ๊ปเลือด Golongan darah</p> <p>じびょう 持病 Hiện nay đang bị những bệnh : โรคประจำตัว (持病) Penyakit bawaan</p>	<p>ひなん 避難カード II ■ Thẻ lánh nạn 2 ■ บัตรหลบภัย ที่ 2 ■ Kartu Pengungsian II</p> <p>ちいき ぼうさいきてん 地域防災拠点 Địa điểm lánh nạn của khu vực (地域防災拠点) ศูนย์ป้องกันภัยในท้องถิ่น Daerah perlindungan bencana</p> <p>こくない きんぎゅうれんらくさき 国内の緊急連絡先 Trong trường hợp khẩn cấp thì có thể liên lạc cho ai ở Nhật Bản : ที่ติดต่อฉุกเฉินได้ภายในประเทศ Alamat darurat yang bisa dihubungi didalam negeri</p> <p>たいし しかん でんわ ばんごう 大使館の電話番号 Số điện thoại của Đại sứ quán : หมายเลขโทรศัพท์ของสถานทูต Nomor telepon kedutaan besar</p> <p>よこはまし こくさいこうりゅうきょうかい 横浜市国際交流協会 (YOKE) 045-222-1209 Yokohama Association for International Communications and Exchanges (YOKE)</p>
--	---

よこはまし せいさくきょく こくさいせいさくしつ しりょうてんさい
 横浜市政策局国際政策室 資料転載

さいがいじれんらくかーど ひなんかーど か こ
災害時連絡カード(避難カード)に書き込むこと

	けいたいでんわ ばんごう 携帯電話の番号	しごとば でんわ ばんごう 仕事場の電話番号	め も メモ
わたし			
おとうさん			
おかあさん			
がっ こう 学 校			

はな ことば 話せる言葉	
にほん きんきゅうれんらくさき 日本の緊急連絡先	
こくがい きんきゅうれんらくさき 国外の緊急連絡先	
かぞく あつ 家族が集まる場所	

★いつも持っていていられるよう「カード」の形にしましょう。

たいけん こうどう
《 体験・行動する 》

かつどう ひなん
■活動 3 — どこに避難しますか？

いえ ちか ひょうしき
あなたの家の近くにどんな「標識」がありますか。

ひょうしき み
どんな「標識」を見たことがありますか。

き つ はな
気が付いたことを話しましょう。

まち なか ひょうしき
「町の中にあるいろいろな標識」



つなみ ひなん あらわ
津波のときに避難するところを表す



つなみ ひなん ほうこう あらわ
津波のときに避難するところの方向を表す



ひじょうぐち ほうこう あらわ
非常口の方向を表す



ひじょうぐち あらわ
非常口を表す



うみ たか あらわ
そこが海からどのくらいの高さにあるかを表す



うみ たか あらわ
そこが海からどのくらいの高さにあるかを表す

いえ ちか ち ず
家の近くの地図をかいてみましょう。

か こ なん
書き込むことは何でしょう。

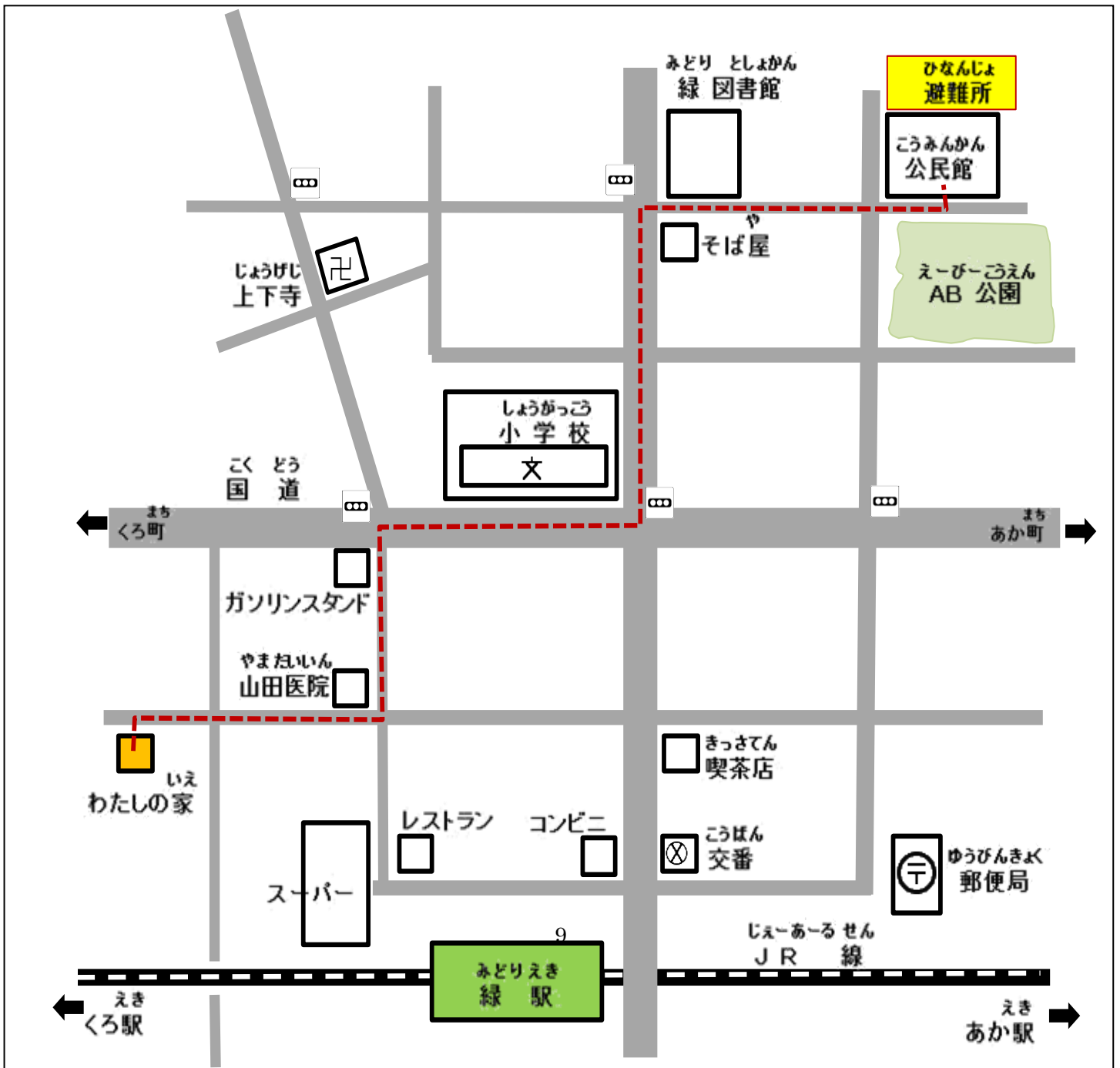
いえ がっこう か もの すーぱー みせ えき ばすてい
あなたの家・学校、いつも買い物をする「スーパー」や「店」、駅・バス停

としょかん びょういん き つ おお たてもの か こ
図書館・病院など、すぐに気が付く大きな建物を書き込みましょう。

いえ ひなんばしょ ひなんじょ い かた か
あなたの家から、避難場所や避難所までの行き方を書きましょう。

たお じどうはんばいき
「あぶないところ、倒れそうなへいや、自動販売機など」はありますか。

れい
《 例 》



ちきゅう こきょうしつさくせいいらすと けいさい
地球っ子教室作成イラストを掲載

よこはまし ひなんじょ してい しりつ しょうちゅうがっこうなど
※横浜市では避難所は指定された市立の小中学校等です。

《 あなたの家の近くの地図 》



たいけん こうどう
《 体験・行動する 》

かつどう ひじょうも だぶろ い いえ びちくひん
■活動 4- 非常持ち出し袋に入れるもの 家の備蓄品

じしん あと どうろ こわ たお くるま とお
地震の後は道路が壊れたり、ものが倒れたりして車が通れません。

とど か もの
それで、ものが届きません。買い物ができません。

でんき つか みず で
また、電気が使えなかったり、水が出なかったりします。

びちくひん ようい
◆ 備蓄品を用意しておきましょう。

みっかぶん た もの みず こま じゅんび
3日分の食べ物、水、あなたにとって、ないと困るものを準備しましょう。

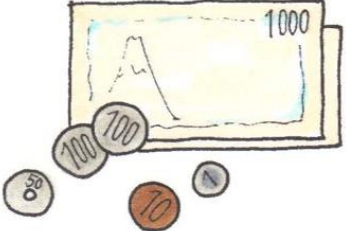

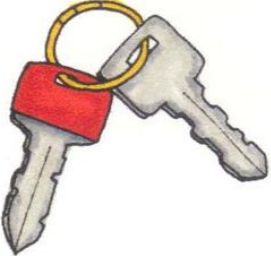


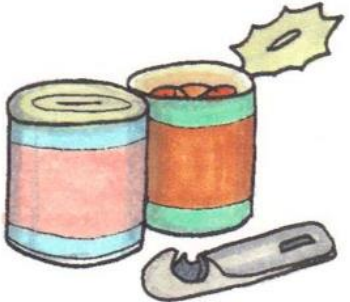
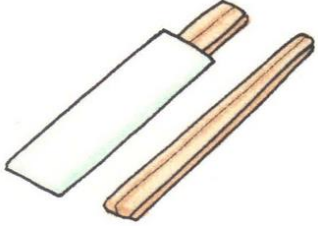

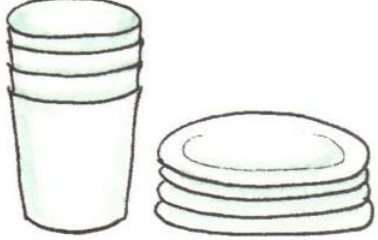


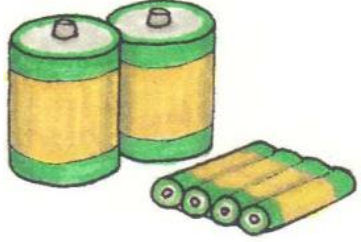
ひじょうも だ ひん りゅっく ふくろ い
◆ 非常持ち出し品をリュックなどの袋に入れておきましょう。

の くすり こま なん
いつも飲んでいる薬や、ないと困るものは何ですか。

じぶん も おも
自分で持つことができる重さにしましょう。



よこはまし しょうぼうきょく げんさいこうどう すすめ てんさい
横浜市消防局「減災行動のススメ」より転載

<p>げんきん 現金</p>	<p>あんぜんかーど 安全カード</p>	<p>かぎ</p>
		
<p>みねらるうおーたー ミネラルウォーター</p>	<p>くらっかー かんぱん クラッカー・乾パン など</p>	<p>かんづめ・かんきり</p>
		
<p>わりばし</p>	<p>すぶーん ふおーく スプーン・フォーク</p>	<p>こっぷ さら かみ ぶらすちっく コップ・皿 (紙・プラスチック)</p>
		
<p>べつとふーど ペットフード</p>	<p>はさみ・ばんそうこう・くすり</p>	<p>よび でんち 予備の電池</p>
		

<p>かっぱ れとるとしよひん カップめん・レトルト食品</p>	<p>もち</p>	<p>かし お菓子</p>
		
<p>けいたいらじお 携帯ラジオ</p>	<p>かいちゆうでんとう 懐中電灯</p>	<p>けいたいでんわ じゆうでんき 携帯電話・充電器</p>
		
<p>ぼうさい へるめつと 防災ずきん・ヘルメット</p>	<p>ますく マスク</p>	<p>ぐんて ごめてぶくろ 軍手・ゴム手袋</p>
		
<p>ひにーるぶくろ ビニール袋</p>	<p>ひっきようぐ 筆記用具</p>	<p>ほいつする ホイッスル</p>
		

<p>たおる はんかち タオル・ハンカチ</p>	<p>ろうそく</p>	<p>ていっしゅ うえつとていっしゅ ティッシュ・ウェットティッシュ</p>
		
<p>とこれつとペー ぱー トイレットペーパー</p>	<p>しんぶんし がむてーぶ 新聞紙・ガムテープ</p>	<p>たくじょうがすこんろ 卓上ガスコンロ</p>
		
<p>ぼうかんぐ 防寒具</p>	<p>き が ようしたぎ 着替え用下着</p>	<p>あまぐ れいんこーと 雨具 (かさ・レインコート)</p>
		
<p>せいりょうひん 生理用品</p>	<p>こんたくとれんず めがね・コンタクトレンズ</p>	<p>ほちょうき 補聴器</p>
		

地球っ子教室作成イラストを掲載

② 「減災行動のススメ」を読んで、わからない言葉を集めましょう。

ようごせつめい
用語説明

※この「書き換え版」で使った地域防災拠点等の用語は「横浜市」で用いられている用語です。

げんさい
減災

さいがい お ひがい で ひがい ちい ひ そな
災害が起きると被害が出ます。その被害をできるだけ小さくするように、日ごろから備えること

ぶれーと
プレート

たいりく かいてい いちばんうえ がんばん
大陸や海底にある一番上の岩盤

にほんれっとう ほくべいぶれーと ゆーらシアぶれーと ちかく ふいりびんぶれーと
日本列島は北米プレートとユーラシアプレートの二つの地殻にまたがり、フィリピンプレート

たいへいようぶれーと しず こ ほうこう つよ あっしゅく
あるいは太平洋プレートの沈み込みによって、2方向から強く圧縮されています

さいがいじれんらくかーど
災害時連絡カード

さいがい お とき れんらく と どう かあ がっこう れんらくさき
災害が起きた時に、すぐに連絡が取れるように、お父さん・お母さん・学校などの連絡先

でんわばんごう か
(電話番号)を書いておきましょう

かーど かたち も
カードの形にして、いつも持っているようにしましょう

さいがいようでんごんだいやる
災害用伝言ダイヤル

さいがいはっせいじ ひさいち つうしん ぞうか じょうきょう ばあい
災害発生時に被災地への通信が増加し、つながりにくい状況になった場合に

ていきょう かいし こえ でんごんばん でんごん ろくおん さいせい ひさいち ひと でんわばんごう ひつよう
提供が開始される声の伝言板(伝言の録音・再生は被災地の人の電話番号にする必要があります。そ

ばんごう しがいきょばん はじ ばんごう
の番号は市外局番から始まる番号になります。)

ひじょうも だ ひん びちくひん 非常持ち出し品 ・ 備蓄品	
ひじょうも だ ひん さいがい お ひなん も 非常持ち出し品 :	災害が起きて、避難するときに持っていく 「自分にとって必要なもの・ないと困るもの」
びちくひん さいがい そな じぶん いえ ひつよう じゅんび 備蓄品 :	災害に備えて、自分の家で必要なものを準備します。 それらの品物を「備蓄品」といいます。

じょうむいん えきかかりいん 乗務員・駅係員	
じょうむいん でんしゃ うんてん うんてんしゅ どあ あ し しゃしょう でんしゃ の 乗務員 :	電車を運転する運転手やドアを開けたり閉めたりする車掌など、電車に乗って いる鉄道会社の人
えきかかりいん かいさつぐち ほーむ えき てつどうがいしゃ ひと 駅係員 :	改札口やホームなど駅で働いている鉄道会社の人

つなみけいほう かいじょ 津波警報 解除	
つなみけいほう つなみ く に し 津波警報 :	「津波が来るから逃げなさい」という知らせ
けいほう かいじょ あんぜん 警報の解除 :	「もう安全です」という知らせ
つなみけいほうかいじょ つなみ きけん し 津波警報解除 :	「津波の危険がなくなりました」という知らせ

どせきりゅう 土石流	
やま どしゃ いし いちど おなが 山からたくさんの土砂や石が、一度に押し流されてくること	

③ ^{さいがい} ^{とき} ^{つか} 災害の時に使われることばを、^き ^と 聞き取れるようになりましょう。

^{じしん} 地震だ！ ^{かじ} 火事だ！

にげる！ いそげ！ いそいで！

あぶない！ たすけて！ のぼれ！

④ ^{じしん} ^{じょうほう} 地震の情報

^{きんきゅう} ^{じしんじょうほう}
「緊急地震情報」

・ ・ ・ ^{さいがい} ^お ^{とき} ^{てれび} ^{なが} ^{じょうほう}
災害が起きた時にテレビなどで流れる情報

はってんてき かつどう

発展的な活動

わーく

◆ワーク 1

ちく ぼうさいせんたー けんがく

地区にある防災センターを見学しましょう。

れい

《例》

よこはまし じんぼうさいせんたー

横浜市民防災センター

しよざいち

所在地 〒221-0844

かながわけんよこはまそかながわくさわたり

神奈川県横浜市神奈川区沢渡4-7

でんわ

電話 045-312-0119

まいしゅうげつようび きゅうかん

★毎週月曜日は休館

だんたい ばあい けんがく まえ よやく

★団体の場合は見学の前に予約すること

指導ノート

取り上げる生活上行為の事例

- ① 地震等災害時にどう行動するのが理解でき、非常時に対応できるようになる。
- ② 家族間の連絡を取り合う方法を理解する。
- ③ 自分の住んでいる地域で、どこに避難するかを理解する。
- ④ 非常時に持ち出すものを理解する、家に備蓄しておくものを理解する。

教室活動の目標

子どもが一人でいたとしても、地震などの災害発生時に安全に行動できるようにする。

教室活動のねらい

- ・日本で生活する上で、災害に対する理解と知識を持つ。
- ・たとえ子どもであっても、自分の身を自分で守るための知識を得る。
- ・家族間の連絡を取り合う方法を知る。災害用伝言ダイヤルが使えるようになる。
- ・災害に備えて備蓄品を準備し非常持ち出し品をそろえられるようにする。

教室活動展開の説明

イメージをつかむ

「減災行動のススメ」の読解

日本では地震がよく起こることを理解。地震が起きた時に、子ども一人でいたとしても落ち着いて行動できるようになりましょう。

- ・地震発生前
- ・地震発生時
- ・地震発生後

3つの場面で、どのように行動したらよいのかを考え、災害時に安全に行動しましょう。

(子どもたちへの質問)

「あなたの国では地震は起こりますか。」

「地震を体験したことがありますか。その時にどう行動しましたか。」

「地震のことで、知っていることがありますか。」

体験・行動する

■ 活動シート

・活動1 — 地震の時に一番大切なことはなんでしょう

「活動1－地震の時に一番大切なことはなんでしょう」では災害時の解説をした横浜市消防局作成の冊子「減災行動のススメ」の書き換え版を理解しましょう。

大人向け・日本人向けのものではなく、日本に来てまだ日が浅い子供達でも理解できるように簡単な日本語とイラストを多数用いて子どもの日本語力で理解できるように書き換えてあります。わからない言葉・難しい言葉は、教室指導時に先生が補足します。日本での災害時によくつかわれる言葉を耳で聞き取って、的確に行動できるようになりましょう。

「横浜市政策局国際政策室」作成の地震に関する多言語のパンフレットを資料として掲載しました。

体験・行動する

■ 活動シート

・活動2 — 災害時連絡カード(避難カード)を作きましょう

「横浜市政策局国際政策室」作成の「避難カード」を例として、掲載しました。

子ども自身で「何を覚えておく必要があるのか」をしっかりと理解させましょう。

災害時には自分で自分の安全を守ります。その後、親とどのようにして連絡を取るのかをしっかりと身につけましょう。

災害の時に、子ども一人で行動していたとしても自分が話せる言葉を使って、大人に助けを求めることができるようにしましょう。

体験・行動する

■ 活動シート

・活動3 — どこに避難しますか？

ここでは、自宅の周りの様子を知りどこに避難場所や避難所があるか、その位置とそこまでの安全な行き方を理解することを目標とします。

自宅から実際に歩いてみて、危険な場所を把握し「安全な避難行動」ができるように地図を作成します。

体験・行動する

■ 活動シート

・活動4 — 非常持ち出し袋に入れるもの 家の備蓄品

なぜ備蓄品や非常持ち出し袋が必要であるのかを理解しましょう。

自分にとってそれらのもののうち、「何が必要なのか」を考えましょう。表の中から「自分にとって必要なもの」を選択し、実際に自分の家に備蓄あるいは準備できるようにしましょう。

非常持ち出し袋は、実際に背負えるか体験し「自分が持てるだけの荷物」を準備しましょう。

発展的な活動

自分の住む地区にある防災センターを見学しましょう。

防災・減災に関する知識を学びましょう。

災害の疑似体験をするなどして、災害の時に何が起きるのか、どのように行動するのか知識を増やしましょう。

《 神奈川県横浜市の例 》

横浜市民防災センター

所在地 〒221-0844

神奈川県横浜市神奈川区沢渡 4-7

電話 045-312-0119

★ 毎週月曜日は休館

★ 団体の場合は見学の前に予約すること